Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

1月号—No.261
2017.1.1
（毎月1回25日発行）

【ペッパー・レッド】唐辛子のような暗い赤。

唐辛子は、中南米を原産とするナス科トウガラシ属の多年草の果実。世界中に広まり、その品種は数千種に上るとか。大きさは1.5センチから25センチ位まで、色も熟したものは赤が多いが、白・黄・橙・紫など多様。ちなみにピーマンは別名スイート・ペッパーという辛くない唐辛子の一種。

●目次／*contents*

地域創造理事長 新年と就任のご挨拶……2

今月のニュース……4

第17回「地域伝統芸能まつり」のご案内
平成28年度「地域創造大賞（総務大臣賞）」受賞施設決定

財団からのお知らせ……7

「公共ホール現代ダンス活性化事業」平成30・31年度登録アーティスト募集
「TPAM—国際舞台芸術ミーティングin横浜2017」開催のお知らせ

今月の情報……8

地域通信

制作基礎知識シリーズ Vol.38……10

東京2020文化オリンピアード 概要と方針

今月のレポート……12

茨城県水戸市　茨城県近代美術館「奇想天外！アートと教育の実験場 筑波大学〈総合造形〉展」

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル9F
Tel. 03-5573-4066　Fax. 03-5573-4060
URL: http://www.jafra.or.jp/

あけましておめでとうございます

平成29（2017）年1月1日
一般財団法人地域創造

地域の皆様とともに
創造性豊かな地域づくりを目指してまいります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

2017年1月～3月　地域創造事業スケジュール

当財団では年度末まで、全国各地でさまざまな事業を展開しております。

1月

- 公共ホール音楽活性化事業
  東京都文京区／17日～19日
  奈良県王寺町／19日～21日
- 公共ホール現代ダンス活性化事業
  島根県松江市／17日～23日
  大阪府八尾市／24日～30日
- 平成28年度地域創造大賞（総務大臣賞）表彰式（東京都・グランドアーク半蔵門／20日）
- 市町村立美術館活性化事業「ポール・デルヴォー版画展」（愛知県田原市／～22日）

2月

- 公共ホール音楽活性化事業
  茨城県日立市／2日～4日
  埼玉県美里町／9日～11日
  埼玉県吉川市／16日～18日
  和歌山県上富田町／17日～19日
- リージョナルシアター事業
  熊本県長洲町／4日～7日、25日～28日
- 公共ホール現代ダンス活性化事業
  神戸市／6日～12日
  兵庫県川西市／27日～3月5日
- ステージラボ豊田セッション（豊田市民文化会館／21日～24日）
- 第17回地域伝統芸能まつり（東京都・NHKホール／26日）
- 公立美術館共同巡回展開催助成事業「パリに生きる　パリを描く」展（神戸市／～19日）

3月

- 公共ホール演劇ネットワーク事業
  「演出家だらけの青木さん家の奥さん」（長野県上田市／4日、5日）（新潟県魚沼市／11日）
- 雑誌『地域創造』第41号発行（25日）

～新年と就任のご挨拶～

一般財団法人地域創造理事長　板倉敏和

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

当財団の事業にご支援・ご協力をいただき、関係者の皆様には心から御礼申し上げます。昨年は、熊本地震をはじめ各地が多くの災害に見舞われました。今も避難生活を強いられている方にお見舞いを申し上げますとともに、被災者支援、復興に尽力されている皆様には心からの敬意を表します。

昨年11月に理事長に就任し、心も新たに地域の皆様のご意見を伺いながら財団の運営に当たっていきたいと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

振り返りますと、私は札幌冬季オリンピックが開催された1972年に自治省に入省し、以来、全国各地を回って地域づくりの仕事をしてまいりました。その中での大きな出合いのひとつが「そば」です。兵庫県生まれという「うどん文化圏」の出身ですが、40歳を過ぎてから、福島県旧舘岩村（現南会津町）湯ノ花温泉の民宿で「裁ちそば」(*)と出合いました。遅ればせながら、こんなに美味しいそばがあるのかと、その魅力に気付きました。

自分でもそばを打つようになり、「板倉庵」というウェブサイトで情報発信もしています。国際演劇祭で有名になった利賀村（現富山県南砺市）で1992年に「世界そば博覧会」が開催されましたが、それをきっかけにそば文化の普及と地域振興に取り組む「全麺協」が設立され、今も私を含め多くのボランティアにより活動が継続しています。地域創造では「地域伝統芸能まつり」を主催していますが、そばに限らず、こうした地域で育まれた文化について改めて思いをいたしているところです。

私はいわゆる団塊の世代の一員です。「2025年問題」と言われますが、人口が減少する中で高齢者の比率が高まるこれからの社会にあって、どうすれば地域が元気になり、どうすればそこに住んで良かったと思えるかは、まずは他でもない地域自らが考えなければならないことであり、現に多くの地域で真剣な模索が続いています。伝統芸能を復活することもひとつでしょう。そうした“元気の芽”になるような地域の自発的な取り組みを財団としても支援していければと考えています。

当財団が設立されて22年。設立当初には考えも及ばなかったほど社会環境が大きく変わりました。これからの時代にどうすれば公立文化施設を活かした創造的な地域づくりという目的を効果的に遂行できるのか、また、その中で、地域創造がどういう役割を果たすことができるのかなど、当財団設立時の理念を踏まえながら改めて考えてみたいと思っています。2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、各地でさまざまな文化プログラムが計画されると思いますが、どのようなお手伝いが必要かを含めて、地域の皆様のご意見・ご提案をぜひお聞かせいただければと思っています。

住んで良かったと思える地域づくりのために微力ながら尽力していく所存です。ご指導、ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

2017年1月

●板倉敏和（いたくら・としかず）

1949（昭和24）年兵庫県生まれ。1972年に自治省入省。三重県財政課長（1981年～）、熊本県総務部長（1989年～）、北九州市助役（1995年～）、総務省自治税務局長（2003年～）、消防庁長官（2005年～）、長野県副知事（2006年～）等を歴任。素人そば打ち5段位。一般社団法人全麺協理事。

＊裁ちそば　会津地方に伝わる伝統的そば打ち手法。つなぎを一切使わない十割そばで、重ね合わせた生地を布を裁断するように切ったもの。

●「地域伝統芸能まつり」

17回目の今年は「妖（あやかし） ～惑わされ、引き込まれ、狂わされ～」をテーマに開催

第17回
地域伝統芸能まつり

平成27年度 第16回地域伝統芸能まつり フィナーレの様子

地域創造では、地域の重要な資源である地域伝統芸能の保存・継承・活用を支援しています。なかでも、日本各地域の伝統芸能と古典芸能がＮＨＫホールに一堂に会し、個性豊かなさまざまな芸能が歴史的・地域的な解説とともに披露される「地域伝統芸能まつり」は、日本の芸能の素晴らしさや地域の伝統の重みを再認識する機会として高く評価されています。

平成12年度から毎年開催されてきたこのまつりでは、これまで全国47都道府県から169演目が披露されました。第17回となる今年のテーマは、「妖（あやかし） ～惑わされ、引き込まれ、狂わされ～」。テーマに沿った、日本各地域の伝統芸能７演目と古典芸能１演目をご紹介します。

◎出演予定地域・演目

県	市／演目
沖縄県（2年ぶり7回目）	うるま市／エイサー
和歌山県（10年ぶり2回目）	御坊市／御坊祭の「獅子舞」「四つ太鼓」
岩手県（2年ぶり9回目）	大船渡市／浦浜念仏剣舞
広島県（2年ぶり5回目）	安芸高田市／ひろしま安芸高田神楽
秋田県（6年ぶり7回目）	羽後町／西馬音内盆踊り
熊本県（6年ぶり4回目）	湯前町／東方組太鼓踊り
東京都（2年ぶり5回目）	中央区／つきじ獅子祭

［日時］平成29年2月26日（日）
　　午後2時30分開演（午後1時30分開場）
［会場］NHKホール（東京都渋谷区神南2-2-1）
［入場］無料
［主催］地域伝統芸能まつり実行委員会
　　一般財団法人地域創造
［後援］総務省、文化庁、観光庁、NHK
［協力］日通旅行株式会社

◎応募方法
平成29年1月28日（土）必着
※応募多数の場合は抽選。発表は本人に直接通知します。
1. インターネット（パソコン、携帯電話等）
募集サイトからご応募ください。
http://www.nhk-p.co.jp/matsuri17/
2. はがき
往復はがきに①～⑦を明記の上、下記事務局までお送りください。
①郵便番号　②住所　③氏名　④年代　⑤性別
⑥電話番号　⑦入場希望者数（はがき1枚につき2名まで）
［応募先］
〒150-0047　東京都渋谷区神山町5-5 NRビル5F
「地域伝統芸能まつり」観覧応募事務局
※ご応募いただいた個人情報は、本事業の抽選、当・落告知および個人を特定しない統計資料の作成の目的のみ使用します。また、事前の承諾なく個人情報を業務委託先以外の第三者に開示・漏洩しません。

◎お問い合わせ　ハローダイヤル
Tel. 03-5777-8600（全日8:00～22:00）

●「地域伝統芸能まつり」に関する問い合わせ
総務部　鈴江
Tel. 03-5573-4056

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

●第17回地域伝統芸能まつり プログラム紹介（予定） ＊演目は変更される場合もありますのでご了承ください。

エイサー（沖縄県うるま市）

エイサーは、本土の盆踊りにあたる沖縄の伝統芸能のひとつ。仏典を広めるために発生した念仏踊りが、次第に姿を変えていったものであり、各地域それぞれに独自の衣装・踊り・掛け声など特色を持つ伝統が受け継がれています。中でも本島中部に位置するうるま市は「伝統エイサーの郷」と言われ、格式のあるエイサーが残っています。演者同士が踊りながら交差し、さまざまな形へと大胆に変化する演舞体系、また、鮮やかな色を取り入れた衣装、男性の大太鼓による力強い踊り、女性によるしとやかな手踊りなど見所満載です。

浦浜念仏剣舞（岩手県大船渡市）

浦浜念仏剣舞は、三陸町越喜来の浦浜地区に伝えられている念仏剣舞です。江戸時代中期または以降に始まったと推測されています。念仏和讃にのせ、ささらが香炉を高く持ち上げ庭をめぐり、踊り手に焼香させる作法、中踊りでの蹲踞、踏み込みの力強さ、後半の剣を振りかざし激しい戦いを演ずる豪放磊落な気風が特長です。東日本大震災では拠点施設が全壊し、道具の大半を流失。一時は継続が危ぶまれたものの、念仏剣舞は「供養」の意味合いが強く、「こういうときこそ」という思いから、百か日の供養のため地域を回り活動を再開しました。

西馬音内盆踊り（秋田県羽後町）

西馬音内盆踊りは、日本三大盆踊りのひとつです。毎年8月16日から18日の3日間行われ、約10万人の観光客が訪れます。素朴で野趣あふれた囃子とは対照的に、流れるように優美で緩やかな動きの踊りが特徴です。その由来は、700年余り前に源信という修行僧がもたらした豊年祈願の踊りと、慶長6（1601）年に滅びた西馬音内城主小野寺一族を偲んで捧げた供養の踊りが融合したと伝えられています。編み笠や彦三頭巾で顔を覆い、踊る者の顔を露わにしない独特の風体は幻想的で妖しい雰囲気を漂わせ、没我の境地にある踊りは幽玄の世界へと誘います。

つきじ獅子祭（東京都中央区）

波除稲荷神社の夏越し大祭「つきじ獅子祭」の始まりは、江戸時代に遡ります。当時、築地は堤防を築いては流される最大の難所でした。そんな折、海面に現れたご神体をお祭りしたところ波風が止み、人々は御神徳のあらたかさに驚き、「龍」「虎」「獅子」の巨大な頭を担いで奉納したのが「つきじ獅子祭」の始まりと言われています。関東大震災で、修理に出していた一対の獅子頭を残し全て焼失してしまったものの、後の昭和2（1927）年に現在の宮神輿が完成し、神輿の祭りが続きます。そして、平成2（1990）年には「天井大獅子」が、平成14（2002）年には「お歯黒獅子」が改めて再興されました。江戸時代以来の大獅子を担ぐ伝統に、新しさを兼ね備えたお祭りです。

御坊祭の「獅子舞」「四つ太鼓」（和歌山県御坊市）

御坊祭は、小竹八幡神社の祭礼で、毎年10月4日（宵宮）・5日（本祭）に行われます。県中部の日高地方最大の祭礼で、大勢の見物客を集め続けています。祭りの起源は定かではありませんが、中世末に中断した後、寛永19（1642）年に「すぐさま祭を行え」と神のお告げがあり再興したと伝えられています。現在は、獅子舞、奴踊、戯瓢踊、雀踊などを奉納しています。また、四つ太鼓と呼ばれる歌舞伎風に化粧した男児を乗せた太鼓台が伊勢音頭に合わせて威勢よく道中を練り歩き、10メートル以上の大幟が力自慢の男性によって見事に差し上げられます。

ひろしま安芸高田神楽（広島県安芸高田市）

安芸高田市の神楽は、出雲流神楽が石見神楽を経て、江戸期にこの地域に伝えられたと考えられています。また、その過程で、九州の八幡系の神楽や高千穂神楽・備中神楽、さらに中国山地一帯に古くから伝わる農民信仰などの影響を受けて、現在の形態になったといわれています。その特徴は演劇性が強いという点で、極めて大衆的で、のびのびした伝統芸能に発展しました。現在では市内に22の神楽団が神楽を舞い、舞人たちはその技を磨き、神楽の継承と保存に大きな役割を担っています。

東方組太鼓踊り（熊本県湯前町）

東方組太鼓踊りは、球磨地方に数多く残る「臼太鼓踊り」のひとつで、勇壮な踊りとして知られています。壇ノ浦で敗れた平氏が球磨の地に落ち延びた後、子孫が昔日をしのんで踊り始めたとも、また、相良氏が士気鼓舞を目的に始めたものが豊年踊りの十五夜踊りと結び付いて風流化したものとも伝えられています。かつては、干ばつ時の雨乞いにも踊られ、西南戦争では焼き打ちの災難を逃れ、夜もすがら踊り祈ったという話が残っています。宮崎県側に多くみられる“背負いもの”を付ける臼太鼓と違い、兜をかぶるのも特徴的といえます。

古典芸能

●狂言『梟山伏』

山から帰ってきた息子の様子がおかしい。心配になった父親は山伏に祈祷を頼みに行きます。山伏が呪文を唱えて祈り始めると病人は奇妙な動きをし、奇妙な鳴き声を発します。父親によると、息子は山へ行った時に、梟の巣を下ろしたらしい。これは梟が取り憑いたものに違いないと、山伏は重ねて祈ります。ところが、一向に効果はなく、ついには親にまで梟が憑き、ふたりは盛んに鳴き声を発します。強そうなのに何故か無力な山伏と「ホホーン」という梟の鳴き声が笑いを誘う童話的な作品です。しかし、ものが人間に憑くという恐怖を思わせて背筋が寒くなる異色の狂言でもあるのです。

［出演］野村又三郎ほか

●「地域創造大賞（総務大臣賞）」発表

平成28年度「地域創造大賞（総務大臣賞）」受賞施設が決定しました。
今年度で13回目となる地域創造大賞は、地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰するものであり、その活動を全国に広く紹介することによってさらなる活性化を図ることを目的としています。

◎平成28年度地域創造大賞表彰式
［日時］2017年1月20日（金）14:00～　［会場］グランドアーク半蔵門

砂川市地域交流センターゆう　北海道砂川市

“まちの文化広場”として地域に活力

まちに活力を取り戻す砂川駅直結の文化交流施設。計画段階から市民が参画し、特定非営利活動法人ゆうを設立し、指定管理者として運営。市民劇団心呂座、こども人形劇団おりおん座、キッズ落語、キッズ・ジャズスクールなどの育成事業、フリーマーケットなどの賑わい事業、高齢者サロンなど多彩な事業を展開。まちの文化広場として世代とジャンルを超えた交流を実現した。

［運営］特定非営利活動法人ゆう
［開館］2007年

八戸ポータルミュージアム（はっち）　青森県八戸市

“まちなか文化施設”として新境地

中心市街地活性化の重責を担った観光・交流・創造拠点。ガラス張りの建物に交流広場、複数のシアターやギャラリー、レジデンス施設、観光物産展示スペース、食やものづくりのスタジオ、子育て支援の交流広場などを設置。食・文化・人など八戸の魅力を掘り起こし、発信する企画力溢れる催しを展開。人の流れを呼び戻し、まちなか文化施設の新たなあり方を提示した。

［運営］八戸市
［開館］2011年

豊島区立舞台芸術交流センター（あうるすぽっと）　東京都豊島区

“演劇の街”の劇場として尽力

演劇の街・池袋に立地する豊島区立の中規模劇場。区が掲げる文化創造都市の拠点として、各種芸術祭の会場になるとともに、池袋西口公園での「にゅ～盆踊り」や区内各所でのワークショップなど地域との交流の場を創出。また、演劇・舞踊団体等の新企画を支援するタイアップシリーズ、プロデュース公演、子ども向け公演の充実などにより、演劇の街の魅力向上に尽力した。

［運営］公益財団法人としま未来文化財団
［開館］2007年

ミューザ川崎シンフォニーホール　川崎市

“音楽のまち・かわさき”を推進

川崎駅西口再開発のシンボルであり、「音楽のまち・かわさき」の拠点施設。東京交響楽団がフランチャイズし、首都圏10のオーケストラと大学オーケストラが勢揃いする「フェスタサマーミューザKAWASAKI」を開催。また、市民団体による推進協議会とともに「かわさきジャズ」など市内各所で1年中さまざまな音楽イベントを展開するなど、音楽文化の振興とまちの活性化に貢献した。

［運営］川崎市文化財団グループ
［開館］2004年

愛知芸術文化センター　愛知県

国際芸術祭により“都市文化の活性化”に貢献

美術館、芸術劇場、文化情報センターからなる大型複合文化施設。年間180万人が訪れる愛知県の文化振興の一大拠点として、美術展、アートフィルムの創作も行う映像事業、オペラからコンテンポラリーダンスまでカバーする舞台芸術公演など多彩なプログラムを提供。また、国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」の担い手となるなど、都市文化の活性化に貢献した。

［運営］愛知県／公益財団法人愛知県文化振興事業団　［開館］1992年

なら100年会館　奈良県奈良市

“歴史文化に根ざした”参加型創造事業を振興

市制100周年記念で整備された国際観光文化都市を象徴する大型複合文化施設。さまざまなコンサートや国際会議などの会場になるとともに、地元の専門家と協働し、市民合唱団・若手声楽家の育成を行い、万葉文化をテーマとしたオペラの創作などを行う「万葉オペラ・ラボ事業」を展開。また、奈良発祥の能楽を子どもたちに普及するなど、歴史文化に根ざした参加型創造事業を振興した。

［運営］一般財団法人奈良市総合財団
［開館］1999年

笠岡市立竹喬美術館　岡山県笠岡市

“美術館の調査研究活動”により地域の誇りを醸成

笠岡出身の日本画家・小野竹喬を顕彰する美術館。作品約2,800点を収蔵。竹喬とその関係作家を対象とした意欲的な調査研究活動を長年にわたって継続し、これまでに200回を越える展覧会を企画。また、多くの出版物、講座、後援会活動を通じて竹喬と近代日本画の業績を広く普及するとともに、地域の誇りの醸成に貢献した。

［運営］笠岡市
［開館］1982年

宗像総合市民センター（宗像ユリックス）　福岡県宗像市

アウトリーチにより“音楽のあふれるまち”を推進

広大な公園に立地し、県内外から年間90万人以上が訪れる文化・スポーツの総合複合施設。　すべての市民が文化芸術を鑑賞・体験できる「文化芸術のまちづくり10年ビジョン」を掲げ、音楽祭などを実施するとともに、アウトリーチ（いきいき出前コンサート）に意欲的に取り組み、市内全幼稚園・保育園・小学校に出向くなど、音楽のあふれるまちの推進に貢献した。

［運営］公益財団法人宗像ユリックス
［開館］1988年

財団からのお知らせ

●「公共ホール現代ダンス活性化事業」平成30・31年度登録アーティスト（コンテンポラリーダンス）募集

この事業は、地域創造に登録されたコンテンポラリーダンスのアーティストを地域のホールに派遣し、ホールとの共同企画により地域交流プログラム（アウトリーチ、公募型ワークショップ）や公演を実施するものです。平成30・31年度事業の実施に当たり、登録アーティストを募集します。事業の趣旨にご賛同いただけるアーティストの方々からのご応募をお待ちしております。また、公立文化施設等の担当者の方々には、地域で活躍するアーティストをご紹介いただければ幸いです。

◎平成30・31年度登録アーティスト募集概要
[応募条件]
①コンテンポラリーダンスのアーティストとして活動し、自身の作品を発表した経験のある方
②ソロ、またはデュオで活動ができる方
③幅広い層を対象としたアウトリーチや公募型のワークショップを行った実績がある方
④実施プログラムのすべてに対応できる方
[募集要項]募集要項および応募用紙は当財団ホームページの「様式箱」（http://www.jafra.or.jp/j/guide/box/）からダウンロードできます。詳細は担当までお問い合わせください。
[応募締切]2017年2月6日（月）必着
（応募用紙・映像資料提出）
[選考日程]2017年3月8日（水）
（書類および映像資料による選考）

●「TPAM―国際舞台芸術ミーティング in 横浜2017」開催のお知らせ

国内外の重要な劇場・フェスティバル・芸術文化団体から数百人の関係者が集い、公演や交流プログラムを通じて、舞台芸術の創造・普及・活性化のための情報を交換し、ネットワークを広げるプラットフォーム「TPAM（ティーパム）―国際舞台芸術ミーティング in 横浜」が2月に横浜市内各所で開催されます。

参加者自身がテーマを設定して少人数（約10～30名）／30分のミーティングを主催できる交流プログラム「グループ・ミーティング」では、劇場やアーティスト団体、助成団体、公立文化機関の活動紹介だけでなく、関係者同士で共有したい課題など多様なテーマでミーティングが行われます（現在ホスト登録を受け付け中。締切：2017年1月20日）。また、ゲストを招いて舞台芸術と社会を繋ぐさまざまなトピックをテーマにしたシンポジウムやトークも実施します。

公演プログラム「TPAMディレクション」では、日本、アジア、世界の舞台芸術の最新動向を体現し、共同製作やコラボレーション、地域コミュニティなどの問題に深く関わる13作品／プロジェクトが上演されます。カンヌ国際映画祭パルムドール賞をはじめ多くの受賞歴をもつ注目の映画作家・美術家、アピチャッポン・ウィーラセタクン（タイ）が初めて取り組んだ舞台作品『フィーバー・ルーム』（日本初演）、平田オリザの代表作『東京ノート』を盗火劇団（台湾）とのコラボレーションで翻案、横浜美術館の展示空間で実施される『台北ノート』（世界初演）、東インドネシアの離島ジャイロロの伝統舞踊を地元の若い女性ダンサー5名と共に現代の視点で解釈した『BALABALA』（日本初演）などは見逃せません。

その他、新人の作品から国際的に評価されるプロジェクトまで多様な公演が集まる公募プログラム「TPAMフリンジ」も開催。未だ見ぬ才能を発見するチャンスです。参加登録はウェブサイト（https://www.tpam.or.jp）からお申し込みください。

上：TPAM in Yokohama 2016 TPAMコプロダクション ピチェ・クランチェン（タイ）『Dancing with Death』
下：同ミーティング・プログラム 特別鼎談「新しい広場」としての劇場（スピーカー：姜尚中、平田オリザ、岡田利規） 撮影：前澤秀登

●公共ホール現代ダンス活性化事業に関する問い合わせ
芸術環境部　江坂・栗林
Tel. 03-5573-4073・4055
dankatsu@jafra.or.jp

●TPAM－国際舞台芸術ミーティング in 横浜2017
[会期]2017年2月11日～19日
[主会場]KAAT神奈川芸術劇場、横浜美術館、横浜赤レンガ倉庫1号館、BankART Studio NYK、YCCヨコハマ創造都市センター、象の鼻テラス、Amazon Club
[主催]国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2017実行委員会（国際交流基金アジアセンター、公益財団法人神奈川芸術文化財団、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、PARC－国際舞台芸術交流センター）
[助成]公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー、損保ジャパン日本興亜「SOMPO アート・ファンド」（企業メセナ協議会 2021 Arts Fund）
[協力]BankART1929、特定非営利活動法人YCC、象の鼻テラス
[後援]外務省、文化庁、神奈川県、横浜市

地域通信

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060　Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当　宇野・小川

●2017年3月号情報締切
2月1日(水)

●2017年3月号掲載対象情報
2017年3月～5月に開催もしくは募集されるもの

地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」掲載情報募集中
当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。
◎公共ホール等の求人情報
◎公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報
掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。　http://www.jafra.or.jp/

北海道・東北

●青森県青森市
青森県立美術館
〒038-0021　青森市安田字近野185
Tel. 017-783-5243　渋谷泰一
http://www.aomori-museum.jp/

青森県立美術館舞台芸術企画『Dance Aleko 2017』
世代や地域を越えた交流により舞台芸術作品を創作する事業として、シャガール作の縦横が約9×15mのバレエ『アレコ』舞台背景画3枚の展示室を会場に、同作品をテーマとしたダンス公演を開催。県民から公募した34人をはじめ多数のダンサーが出演し、10年前の開館年度に今回と同じテーマの舞踊劇に出演した岩渕伸雄が演出・振付する。
[日程]1月27日、28日
[会場]青森県立美術館

2015年度公演『Night at the Museum』
撮影：西川幸治

●岩手県花巻市
萬鉄五郎記念美術館
〒028-0114　花巻市東和町土沢5-135
Tel. 0198-42-4402　伊藤真紀子
http://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/501/yorozutetsugoro/p004177.html

光の詩人 内村皓一展 ～白と黒の深淵～
盛岡で生まれ、戦後、花巻を拠点に活動を続けた写真家・内村皓一(1914～93)は、国内外で高い評価を受けるとともに、国際的なネットワークの構築や後進の指導にも尽力した。初の大規模な回顧展として、戦時中に関東軍に徴用され赴いた中国・奉天での市井の人々や風景50点をはじめ、戦後にサロンを中心として発表した女性像や「貌」シリーズなどによって、高村光太郎に「光の詩人」と称された写真家の全貌に迫る。
[日程]2016年12月3日～2月19日
[会場]萬鉄五郎記念美術館

関東

●栃木県宇都宮市
宇都宮美術館
〒320-0004　宇都宮市長岡町1077
Tel. 028-643-0100　橋本優子
http://u-moa.jp/

石の街うつのみや―大谷石をめぐる近代建築と地域文化
宇都宮の近代史と、その発展を支えた大谷石をテーマとした展覧会。旧帝国ホテルライト館に代表される大正末期以降の石と鉄筋コンクリートの建築が注目されるなか、産地として栄え、石で彩られた独自の景観を残す街の歴史に、近代デザイン史、産業文化史の観点から焦点を当てる。石材、建築図面・模型、美術作品などを展示し、関連イベントも多数開催される。
[日程]1月8日～3月5日
[会場]宇都宮美術館

●東京都墨田区
すみだ北斎美術館
〒130-0014　墨田区亀沢2-7-2
Tel. 03-5777-8600
http://hokusai-museum.jp/

開館記念展「北斎の帰還―幻の絵巻と名品コレクション―」
11月22日に開館したすみだ北斎美術館の開館記念展。北斎は生涯のほとんどを墨田区で過ごし、隅田川流域を題材に多くの作品を残した。本展では、海外に流出していたものの、2015年に同区が取得した《隅田川両岸景色図巻》を全巻初公開するとともに、北斎の肉筆画や版画など前後期合わせて約120点を展示する。
[日程]2016年11月22日～1月15日
[会場]すみだ北斎美術館

北陸・中部

●岐阜県瑞穂市
瑞穂市、瑞穂市教育委員会、みずほ演劇祭実行委員会
〒501-0392　瑞穂市宮田300-2
Tel. 058-327-2117　生涯学習課
http://www.city.mizuho.lg.jp/4611.htm

みずほ演劇祭2017
2002年に岐阜県における演劇活動のさらなる振興を目指し「ほづみ演劇祭」としてスタート。翌年の瑞穂市誕生に伴い名称を変え、16回目を迎える。今回は「輝」をテーマに応募のあった6団体が公演を行うほか、ショートドラマ枠として3団体による短編作品が上演される。公募で集まった市民サポーターの協力により運営される。
[日程]1月21日～2月12日
[会場]瑞穂市総合センター

近畿

●神戸市
神戸ファッション美術館
〒658-0032　神戸市東灘区向洋町中2-9-1
Tel. 078-858-0050　浜田久仁雄
http://www.fashionmuseum.or.jp/

神戸開港150年記念 ファッション都市神戸―輝かしき国際港と地場産業の変遷
フッション都市・神戸の魅力の再発見を、まちと歴史の検証を通

ウォーキング・ドレス(1885年頃／フランス／神戸ファッション美術館蔵)

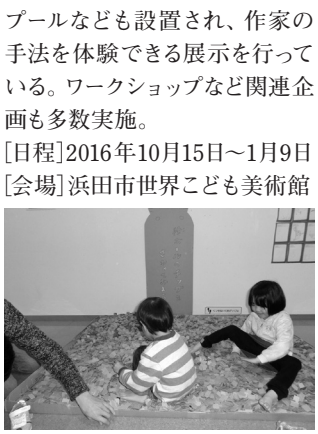
して試みる展覧会。1868年の開港を契機とした外国人居留地の人々との交流や、巨大貿易港として発展する過程で根付いた産業や文化、なかでも神戸洋服やアパレル、神戸靴、ケミカルシューズ、真珠加工、清酒、コーヒー、洋菓子、神戸洋家具といった地場産業と、150年間にわたりさまざまなスタイルを発信し続ける神戸生まれのファッションに光を当てる。
[日程]1月19日～3月26日
[会場]神戸ファッション美術館

中国・四国

●島根県浜田市
浜田市教育文化振興事業団
〒697-0016　浜田市野原町859-1
Tel. 0855-23-8451　高野訓子
http://www.hamada-kodomo-art.com

ダンボールの変身展

再生をテーマにした3カ年のアートプログラムの1年目となる展覧会。素材にダンボールを使用し、4組の作家による作品展示を行う。会場では、端材とホットボンドを使用した立体的造形作品にちなみ、端材の段ボールを組み合わせて作品づくりができるコーナーや、ダンボールチップのプールなども設置され、作家の手法を体験できる展示を行っている。ワークショップなど関連企画も多数実施。
[日程]2016年10月15日～1月9日
[会場]浜田市世界こども美術館


ダンボールチップのプール

●香川県高松市
高松市塩江美術館
〒761-1611　高松市塩江町安原上602
Tel. 087-893-1800　三宅靖之
https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/museum/shionoe/

生誕100年 市原輝士 ―伝承―展

香川県で生まれ育った郷土史家・市原輝士の生誕100年、没後20年を機に、その足跡と人間像を残された資料から紹介する。地元で教職に携わりながら、四国地方の歴史や民俗を研究し、古い民家や風景などの水彩画を残した。水彩画37点を中心に、表紙をデザインした雑誌や、郷土史の著書などを展示する。
[日程]2016年12月3日～1月22日
[会場]高松市塩江美術館

九州・沖縄

●福岡市
福岡市文化芸術振興財団
〒810-0802　福岡市博多区中洲中島町3-10
Tel. 092-263-6266　宮崎麻子
http://www.ffac.or.jp/news/detail158.html

筑前琵琶演奏会 ～きゃふんとべべん、仙厓和尚と音あそび～

明治期に福岡で生まれた弦楽器、筑前琵琶による演奏会。『那須与一』など琵琶ならではの楽曲のほかに、「博多の仙厓さん」として親しまれてきた江戸後期の禅僧・仙厓義梵(せんがいぎぼん)を題材にした新曲が披露される。仙厓作品を200点以上所蔵している福岡市美術館副館長と演奏者のトークコーナーも設けられる。
[日程]1月7日
[会場]アクロス福岡

●佐賀県佐賀市
佐賀県立美術館
〒840-0041　佐賀市城内1-15-23
Tel. 0952-24-3947　秋山沙也子
http://saga-museum.jp/museum/

池田学展 The Pen ―凝縮の宇宙―

佐賀県出身の画家・池田学が、2013年からチェゼン美術館(アメリカ)で制作を開始した作品が今秋完成し、日本で初公開される。池田は細いペンとカラーインクを使った細かな線による画面が特徴的で、ほぼ下絵はせずイメージで描き上げる。今回はその3×4mの巨大な新作をはじめ、約120点を展示。緻密で迫力のある作品の数々が楽しめる。
[日程]1月20日～3月20日
[会場]佐賀県立美術館

池田学《Bait》(2010年／紙にペン、インク／22×27cm／中尾氏蔵)　撮影:宮島径
©IKEDA Manabu Courtesy Mizuma Art Gallery

●宮崎県都城市
都城市文化振興財団
〒885-0024　都城市北原町1106-100
Tel. 0986-23-7140　大浦太輔
http://mj-hall.jp/

スマイルみやこんじょ第8回公演『ふちもふち×こめもこめ～あなたと私のおくりもの～』

脚本づくりから出演まで市民でつくる創作劇。口蹄疫や新燃岳噴火に見舞われた都城に元気とスマイルをもたらそうと、2011年より実施。ホールで開催した戯曲講座参加者が書いた脚本を、講師で演出の福田修志(劇作家・演出家、F's Company代表)が加筆・構成して上演した第1回公演『ふちもふち/こめもこめ』を再演する。再演にあたり、都城島津邸や中心市街地、畜産農家など再度取材し、この5年間の変化を追加エピソードとして脚本に加えている。
[日程]1月15日
[会場]都城市総合文化ホールMJ

スマイルみやこんじょ第7回公演『妖怪ガグレ、街に現る』(2016年1月)

●鹿児島県鹿児島市
鹿児島県文化振興財団
〒892-0816　鹿児島市山下町5-3
Tel. 099-223-4221　川原誠
http://www.houzanhall.com/

ミュージカル『ヤジロウと海乱鬼2016』

平成26年度に自主制作・上演した鹿児島県の歴史に根ざしたミュージカルの再演。地元で活躍している演出家や音楽家、舞台制作事業所等と連携し、出演者も公募オーディションにより決定した県民参加型のミュージカル。約60回の稽古を経て、小学生から70歳代までの幅広い年齢層の県民が参加する。
[日程]1月7日
[会場]宝山ホール

※お詫びと訂正
12月号(No.260)地域通信欄に掲載した記事に複数の誤りがありました。お詫びするとともに記事を改めて掲載させていただきます。

●東京都八王子市
伝承のたまてばこ事務局
〒192-0066 八王子市本町24-1 いちょうホール2F(八王子市学園都市文化ふれあい財団内)
Tel. 042-621-3005　木村美紀子
http://www.denshonotamatebako.tokyo

伝承のたまてばこ ～多摩伝統文化フェスティバル2016～

八王子駅周辺のまちなかを舞台に農村歌舞伎、祭囃子や八王子芸妓衆の踊りなど、多摩地域・八王子に伝わる伝統文化・芸能の魅力に世代を越えて楽しんでもらうフェスティバル。明治から昭和初期まで八王子で大衆娯楽として演じられていた「影絵」に欠かせない道具である種板の制作、染物工房での染物体験といったワークショップも開催する。東京造形大学大学院Hachioji影絵プロジェクトによる新作公演も。東京2020公認文化オリンピアード。
[日程]11月26日、27日
[会場]JR八王子駅周辺

●制作基礎知識シリーズ Vol.38「東京2020文化オリンピアード」

文化オリンピアードを地域の活力に

制作基礎知識シリーズ Vol.38

東京2020 文化オリンピアード 概要と方針

講師　山名尚志
（株式会社文化科学研究所代表）

●東京2020文化オリンピアードの枠組み

「東京2020大会」(*1)の文化プログラムがどのようなものかを理解するためには、まず、2つの基本的な前提条件を押さえておく必要がある。第一は大会自体がIOC（国際オリンピック委員会）およびIPC（国際パラリンピック委員会）の独占的資産であり、大会に関わる決定事項についてはすべてIOCの承認が必須だということ。大会運営の実行組織である公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下、組織委員会）も、東京都およびJOCの出捐団体ではあるが、IOCに直接の報告義務を負っている。文化プログラムも、当然のことながらこうした枠組みの下にあり、予めその計画についてIOCの承認を受けていなければならない。

2つ目は名称やマークの使用に関する条件である。IOCおよびIPCの資産の中には、オリンピックやパラリンピックの名称やマーク、大会エンブレム、競技のデータをはじめとする記録等がすべて含まれており、組織委員会にはそうした資産を適切に保護する責務がある。特に重要なのが、大会の名称やマークを勝手に企業・商品の広告・宣伝に使うアンブッシュ・マーケティングの禁止である。一方、非商業的な利用については、オリンピック・アジェンダ2020(*2)で「非営利目的でのオリンピック・ブランドへのアクセスを拡大する」との提言が採択され、逆に拡大への努力が図られることになっている。

上記からわかるように、東京2020大会の正式な文化プログラム＝「オリンピックやパラリンピックとの関係を告知することができる事業」はすべて組織委員会のコントロール下にある。したがって他の主体による独自の活動、例えば国で進めている「beyond2020」(*3)は、東京2020大会を契機とした活動ではあっても、オリンピックやパラリンピックの活動そのものではない。また、開催都市である東京都の文化事業も、組織委員会の認証があって初めて正式に東京2020大会の文化プログラムとして位置づけられることになる。なので、正式の文化プログラムについての方針や目標数値は、組織委員会から発表されることとなる（ちなみに現時点で目標数値は発表されていない）。

●東京2020文化オリンピアードの概要

それでは東京2020大会の文化プログラムはどのようなものなのだろうか。この基本は、2015年2月発表の「東京2020大会開催基本計画」に記載されている。まず押さえておかなければならないのは、大会が、「単に2020年7月～9月に東京で開催されるスポーツ大会ではなく、多くの『ひろがり』をもつイベント」（基本計画より）として定義されていることである。具体的には、スポーツ以外の“分野”、2020年以降の“時間”、東京以外の“地域”への広がりをもつとしており、分野としては「スポーツ・健康」「街づくり・持続可能性」「文化・教育」「経済・テクノロジー」「復興・オールジャパン・世界への発信」の5つが置かれている。オリンピック憲章に直接記載されている文化だけではなく、他の分野にも幅広くオリンピック・パラリンピックの運動を拡げていく。これが東京2020大会の大きな特徴のひとつとなっている。

上記に基づき、各分野で2020年までに何を行い（アクション）、何をそれ以降に残していくか（レガシー）が記載されたアクション&レガシープランが策定されている（毎年更新、最新版は2016）。文化の分野では、「日本文化の再認識と継承・発展」「次世代育成と新たな文化芸術の創造」「日本文化の世界への発信と国際交流」「全国展開によるあらゆる人の参加・交流と地域の活性化」の4つを残すべきレガシーとし、そのためのアクション例が記載されている。

ひとつ注意しておくべきことは、よく文化プログラムの成功例として引用されるロンドン2012大会とは大きく事情が異なっていることである。ロンドンでは、組織委員会に所属する各地のボードとクリエイティブ・プログラマーが、アーツカウンシル・イングランドおよび宝くじの大きな予算を背景に、企画・運営を直接実施する体制を取っていた。そのため統一されたコンセプトで文化プログラムのディレクションが実行されていた。一方、今回の大会では、組織委員会に

＊1　東京2020大会
正式名称は「第32回オリンピック競技大会および東京2020パラリンピック競技大会」。2008年の北京大会からオリンピックとパラリンピックの大会およびその運営を行う組織委員会は正式に統合されることになったため、東京2020大会と言えばオリンピック、パラリンピック双方を指す。

＊2　オリンピック・アジェンダ2020
2014年12月にモナコで行われた第127次IOC総会において採択された20＋20の改革案のこと。

＊3　beyond2020
内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部が制度設計官庁として進めている。

文化・教育委員会が置かれてはいるものの、現在のところ、全体の方針づくりや情報共有、調整等の役割が基本であり、事業運営には直接タッチしていない。各団体が主体的に企画・運営するものとして参加する方針が採られているわけで、結果、文化プログラムのあり方も相当に異なったものとなることが予想される。

●東京2020文化オリンピアードに参加するには

上記のアクション&レガシープランに基づき、2016年8月、文化を含む各分野で東京2020大会に参画するための「東京2020参画プログラム」が発表、開始されている。これに基づき、組織委員会に参画を申請し、認証された場合、マークとオリンピック・パラリンピックの文言の使用が認可され、東京2020大会への参加が可能となる。内容面での審査基準は、大会ビジョン(「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」)に則っていること、各分野のレガシー・コンセプトに当てはまっていること。プログラム名は分野ごとに異なり、文化では、「東京2020文化オリンピアード」という名称になる。

参画方式は、申請主体の種別によって2種ある。ひとつは「東京2020公認プログラム」で、申請が可能なのは、政府(各省庁)、東京都、都内区市町村、組織委員会、東京2020大会のスポンサー企業、JOC・JPC、大会放送権者、会場関連自治体(道県、市町)のみ。「公認マーク(オリンピック、パラリンピックのエンブレムが入ったもの)」の使用および事業のタイトル内でのオリンピック、パラリンピックの名称使用が可能となる(ただし大会そのものや組織委員会の主催と誤認されないようにする必要がある)。

もうひとつは「東京2020応援プログラム」で、こちらは地方自治体、公益法人、その他非営利団体等であれば使用ができる。「応援マーク(オリンピック、パラリンピックのエンブレムが入らない)」の使用が許可され、オリンピック、パラリンピックの名称は、タイトルでは使用できないが、説明文では使用可能である。

申請に当たっての留意事項がある。1つは応援プログラムについて、2016年下半期の段階ではすべての自治体、非営利団体まで対象が拡大されていないことで(現状では、文化の分野については、府県、政令市、(独法)日本芸術文化振興会、(独法)国際交流基金、(公財)東京都歴史文化財団、(公財)日本芸能実演家団体協議会のみ)、2017年度より大幅に拡大されていく予定となっている。

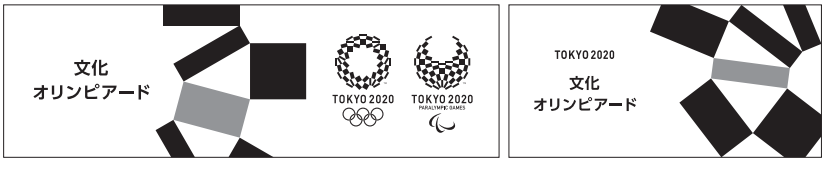
もうひとつはアンブッシュ・マーケティングの禁止である。主催者が申請可能な団体であっても、共催者やその他協賛・協力などの団体が申請不可の団体の場合認証は通らない。また、事業に関わる告知物や会場内の掲示物に企業や商品の広告・宣伝の文言が入ることも厳禁。使用機材・消耗品も、スポンサー企業以外のブランド名を出してはいけない(可能であればスポンサー企業のものを調達。難しい場合はマスキング)。公立文化施設の場合、指定管理者が民間企業であると事業の主催者等として社名表記ができなくなるので留意が必要である(詳細および具体的な申請手続き、マークの表示ルール等については、申請可能となった段階で組織委員会から各書式とガイドラインが公表される)。

東京2020大会への参画は、地域の文化振興にとって、また地域づくり全体にとって大きな契機となりうる可能性をもつ。正式な東京2020文化オリンピアード以外の自主的な活動が禁止されているわけではないので、そのポテンシャルを活用し、地域の活力にどう繋げていくか。各地の意欲的なチャレンジが待たれている。

なお、上記の状況はあくまで現段階のものであり、今後の方針拡大については注視していく必要があることを最後に付け加えておきたい。

●東京2020参画プログラムイベント予定
https://tokyo2020.jp/jp/get-involved/certification/event/

●東京2020大会公認マーク(左)/応援マーク(右)の例



© The Tokyo Organising Committee of the Olympic and Paralympic Games

＊地域創造レターは再生紙を使用しています

茨城県水戸市

茨城県近代美術館

奇想天外！アートと教育の実験場 筑波大学〈総合造形〉展

地域の美術館と大学の新しい関係のカタチを予感させる企画展「奇想天外！アートと教育の実験場　筑波大学〈総合造形〉展」が茨城県近代美術館で1月29日まで開催されている。同館は、横山大観をはじめ茨城県に縁のある作家を中心とした明治以降の日本美術作品、モネやルノワールなどの西洋絵画など約3,900点を収集し、国内外の近代美術作品を主に紹介している美術館だ。しかし、今回の企画展では、現代美術作家を輩出してきた地元の筑波大学芸術専門学群構成専攻総合造形領域に焦点を当て、その創造の源流を“教育”の観点から解き明かそうという試みだ。

●

総合造形コースは、造形と環境・メディア・科学技術を繋ぐ新たな表現の可能性に着目し、これまでの芸術大学にはなかった領域として1975年に創設された。初期にはメディアアートの先駆者として知られる三田村畯右や山口勝弘、現代美術の領域を押し広げた河口龍夫、篠田守男ら名物教授4名が教鞭を執り、ユニークな授業を展開。彼らの研究室からは、芸術分野を越えた多様なジャンルで活躍する人材が育ってきた。

本展を担当した学芸員の吉田衣里さんは、「近代の日本美術が専門なので、今回初めて現代美術を扱った。資料が整理されていない上、美術館の建物が現代美術のインスタレーションに向いていないなどいろいろ苦労した。当館には『現代アートはわからない』というお客様もいるが、教育という基軸で、こんな変わった作品をつくる人がどうやって育ってきたのかを歴史的に整理して見せることで、当館ならではの展示ができるのではと思った」と言う。

会場は、Ⅰ.「総合造形」という実験：礎を築いた4教員、Ⅱ.「総合造形」の発展：現在に至る教員、Ⅲ.「総合造形」を経て：道を切り拓く卒業生、の3部で構成。作品とともに、教員や卒業生への調査で集めた豊富な資料が展示されていた。

Ⅰ部では、当時の最新科学だったホログラフィーと美術を融合させた三田村、ビデオなどのテクノロジーを取り込んだ山口などメディアアート創世期の作品を紹介。資料の写真からは、学生と共に科学実験室のような工房で研究と制作に取り組んでいた様子が伺え、科学と芸術が融合した創造の現場の空気を伝えていた。また、河口の学生便覧を素材にした作品群、彫刻の概念を超えて重力から解き放たれたような篠田の立体作品なども刺激的だった。

Ⅲ部では、彼らの教え子である明和電機（パフォーマンスと造形を融合させたアーティストユニット）の土佐信道、メディアアーティストの岩井俊雄、光と陰を巧みに取り込むクワクボリョウタら、今ではすっかり人気作家となっている卒業生6人の作品を学生時代の課題などとともに展示。また、当時の名物授業の様子も紹介されていた。その中のひとつが、造形、ダンス、音楽を融合した大掛かりなパフォーマンスを共同制作し、秋の学園祭で発表するという「空間劇場」だ。また、河口のユニークな課題「我が子に与える遊戯装置」の創作や、「概念としての石を描く」など、土佐やクワクボのルーツを垣間見た気がした。

関連事業では名物教授によるワークショップを実施。取材当日には彫刻家の篠田が「3Dボックス」を題材に、地元の中学生を含む30人の参加者を指導していた。「〈総合造形〉では大学や教員が理想を与えるのではなく、『自分の理想をもつ』ことが理想。だから僕と同じような作品をつくっている教え子はひとりもいない。ポケモンを開発した石原恒和君もそうだが、（卒業生たちは）ジャンルを越えていろんな分野を開拓している。作品が売れる経験をするのも大切だから買ったものもあり、その一部を展示した。学生にはよく『買ってくれたのになぜ成績はEなんですか？』と質問されたが、課題の点数と作品としての良さは別だから（笑）」と懐かしそうだった。

〈総合造形〉という大学教育として切り拓かれた領域を、地域の美術史として読み解いた今回の展覧会。こうした美術館のリサーチ力こそ、これからの地域美術館の役割ではないかと感じた。　（アートジャーナリスト・山下里加）

上：「Ⅰ.『総合造形』という実験」の展示（写真は三田村畯右の作品）／中：ギャラリートークで作品について自ら解説する河口龍夫（11月23日）／下：「Ⅲ.『総合造形』を経て」の展示（明和電機）
撮影：齋藤さだむ

●奇想天外！アートと教育の実験場
筑波大学〈総合造形〉展
［会期］2016年11月3日～2017年1月29日
［主催］茨城県近代美術館
［共催］筑波大学
［出品作家］Ⅰ.「総合造形」という実験：三田村畯右、山口勝弘、篠田守男、河口龍夫／Ⅱ.「総合造形」の発展：河口洋一郎、國安孝昌、逢坂卓郎、村上史明、小野養豚ん／Ⅲ.「総合造形」を経て：佐々木秀明、岩井俊雄、寺田真由美、土佐信道（明和電機）、クワクボリョウタ、林剛人丸